

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定 実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月11日実施)	総合評価 (3月14日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	これからの時代を心豊かにたくましく生きていく力を育むため、主体的に学ぶ意欲を高め、資質・能力を育成する教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。	(1)生徒が主体的な学びを実現できるような授業実践をする。新教育課程の完成年度を見据え、生徒の資質・能力の育成するような教育課程の点検・改善に取り組む。 (2)主体的・対話的かつ教科横断的な学びの視点を踏まえた授業力向上推進重点校事業として、ルーブリック評価やICT活用を含めた振り返りを行い、生徒の自己調整学習を促す。	(1)①授業力向上推進重点校としての組織的な授業改善に取り組む。 ②進路希望に対応した教育課程を編成する。 (2)①生徒の主体的・対話的な学びが継続する活動を行う。 ②各学期の研究授業の実践と、ルーブリック評価を実施する。 ③ICTやその他のツールを使用した振り返りを設定する。 ④ICT利活用による校務の効率化と情報スキルの向上を図る。	(1)①授業アンケートの当該項目の数値が昨年度に比べ上昇したか。 ②生徒のニーズを踏まえた選択科目の展開・設定ができたか。 (2)①②全教科で各活動の基準となるルーブリック評価が実施できたか。 ③全教科で適切なツールを使用した振り返り活動が週に1回は実施できたか。 ④適切なタイミングで、職員と生徒双方が滞りなくICT利活用ができたか。	(1)①授業アンケートの当該項目について多くが「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」という回答であった。 ②生徒のニーズを踏まえた選択科目の展開・設定の見直しを現在協議中である。 (2)①②1学期校内研究授業において、全教科でルーブリックを用いた活動評価・生徒同士の相互評価ができた。	(1)①教科会や様々な研修、研究授業を通じてより一層の組織的な授業改善をめざす。 ②選択科目を中心に、学習指導要領に基づく教育課程の完成年度を見据え、教育課程全体を見直す。 (2)①②ルーブリックでの評価を通し、振り返り活動に繋げる。 ③振り返り活動の後、次の活動に繋がっていない教科があり、方法を共有する。 ④活用できている教科と情報共有を行い、スムーズなICT利活用を組織的に実施する。	・ルーブリックの導入は大学でも簡単ではなく、課題である。生徒の自己調整学習促進が実現していることは大変すばらしい。 ・横浜市の中学生のICT活用率は全国的に低い。ICTを利活用できる教員、できない教員の差が大きいのが一因だと思われる。いまICTは文房具と同じで、キャリアの上でも重要な存在である。生徒の利活用が進むような支援の形がとれたらよいと思う。 ・この程度でよいと思っている生徒には、課題を一つ一つを自分たちで解決させ、ステップアップさせていく。	(1)①授業アンケートの当該項目について多くが「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」という回答であった。 ②生徒のニーズを踏まえた選択科目の展開・設定の見直しを現在協議中である。 (2)①②1学期校内研究授業において、全教科でルーブリックを用いた活動評価・生徒同士の相互評価ができた。 ③ルーブリック評価に関しては、定期的に振り返り活動を行っている教科があった。 ④ICTの利活用については、あまり活用できていない教科が多かった。	(1)①教科会や様々な研修、研究授業を通じてより一層の組織的な授業改善をめざす。そのための方策として、ルーブリック評価を中心とした、振り返りの方法を検討する。 ②本校の目指す生徒像や、学習指導要領の趣旨を踏まえ、選択科目を中心に、学習指導要領に基づく教育課程の完成年度を見据え、教育課程全体を見直す。 (2)①②ルーブリックでの評価を通し、振り返り活動に繋げる。 ③振り返り活動という手段をもとに、よりよい教育活動に繋がられるよう、情報の共有を行う。 ④研修などの機会を用いて、活用できている教科と情報共有を行い、スムーズなICT利活用を組織的に実施する。
2 生徒指導・支援	部活動や行事、日常的な生徒指導を通して、社会規範を身に付け責任感や連帯感を高め、自己表現に向けて努力する姿勢と命を大切にすることを育む。	(1)新型コロナ感染の新しい対応策を踏まえながら、生徒が部活動や学校行事に積極的に参加し、他者との関わりの中で自己有用感を持つことができるよう指導、支援する。 (2)①学校説明会での生徒参加により、生徒自らの自己肯定感を高める。 ②「1人1台端末」の活用が更に促進されているため、生徒の情報モラルの向上に一層努める。	(1)①学校行事に生徒が中心となって取り組めるよう内容を精選し、保護者や地域と協力しながら運営する。 ②部活動加入率を保ち、部活動の活性化を図る。 ③交通安全に係る定期的な指導を行う。 ④教育相談窓口を活性化し、外部機関等とも連携し適切な対応がとれる組織を構築。職員の知識やスキル向上を図る。 (2)①ボランティア委員や生徒会と協力し、質の高い学校説明会を運営する。	(1)①アンケートにおける生徒や保護者等の満足度が高まったか。 ②2、3年次の部活動加入率が低下していないか。 ③交通事故や近隣からの苦情が減少したか。 ④SNSでの問題行動が減少したか。起こった場合、組織的に対応できたか。職員の知識やスキルの向上が図れたか。 (2)①学校説明会での生徒のスタッフ参加を促し、アンケート結果の満足度が8割以上となったか。	(1)①学校行事では大多数の生徒が満足できるとの回答であった。また、PTAと協力して開催することができた。特に文化祭では、生徒の意見を取り入れた運営を実践できた。 ②令和5年度5月現在の部活動加入率では、今年度も2・3年次の加入率は1年次に比べて低下する傾向であった。全体の加入率は前年度より、5.6%上昇した。 (2)①学校説明会全体の満足度がほぼ10割となった。	(1)①感染対策の緩和に伴い、以前のやり方に戻すだけでなく、さらに生徒の意見も取り入れながらさらなる内容の精選に取り組んでいく。 ②2・3年次の部活動加入率の低下に対しては、意欲の低下や進路活動との両立等の現状を正確に把握して部活動顧問と連携して対応していく。 (2)①同じ生徒が毎回ボランティアスタッフとして参加していたため、より多くの生徒に参加を促す手立てを考える。	・自己肯定感があればほとんどすべての問題が解決すると思う。学校説明会は確かに良い場だと思う。 ・文化祭で自分たちでイベントを考えて行動したことはすばらしい。 ・SNSや自転車等の事故が生じた時、どうするべきかを自分たちで考えることが大切で、元石川の生徒ならそれができると思う。 ・生徒の満足感、待つ姿勢を変えていく。	(1)①生徒が学校行事に対して、主体的に取り組み自己有用感を持つことができるような体制を整える。PTA・地域の方々や保護者等との連携を深めながら各行事の企画・運営を行うことができた。 ②部活動については、2・3年次の加入率が低下していることについて具体的な対策をとることができなかった。 ③交通事故や近隣からの苦情は減少した。今後、生徒自身で考え行動できるスキルを身に着けさせる、組織的支援が必要。 ④SNSでの問題行動は減少した。新入生に対して、具体的に事例を上げ説明、指導することが必要。	(1)①さらなる学校行事の内容の精選を行うために、行事の担当だけでなく活動グループ全体で運営する体制を整えていきたい。また、アンケートをさらに活用し広く意見が反映できるような仕組みを考えていきたい。 ②部活動については、各部の顧問の先生と連携を取りながら、部活動を通じて生徒の主体性がさらに身につくよう取り組んでいきたい。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (1月11日実施)	総合評価(3月14日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
				②情報モラル向上の研修会等を実施する。	②情報モラル向上のための研修を行えたか。					
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりの進路希望実現に向け、自らのキャリア発達を意識できる、3年間を見通した進路指導の充実を図る。	(1)生徒一人ひとりの進路実現を支援する体制を充実させる。 (2)3年間を見通した進路支援を行い、キャリア意識の向上を図る。	(1)2学年の早い時期に「第1志望宣言」を書かせ、生徒1人ひとりの進路希望に対応したきめ細やかなキャリア支援を行う。 (2)Classi等のツールや外部講師を活用し、生徒のキャリア意識の向上を図る。	(1)情報提供や進路指導を充実させ、生徒の進路実現をサポートすることができたか。 (2)Classi等のツールや外部講師を活用し、生徒のキャリア意識の向上を図ることができたか。	(1)職員間で進路指導への意識を共有し、個ではなく組織的に進路指導を行う体制をつくり、生徒を支援することができた。 (2)定期的に外部講師による講演会を取り入れることで、生徒の進学への意識を高めることができた。	(1)組織的な進路指導を行うためには、元石川高校の進路指導として何を目的とするのかを明確にし、全職員で共有する。 (2)外部講師による講演会が生徒に及ぼす効果を検証し、実施時期や方法を検討していく。	・大学進学への意欲を高めることができているのは喜ばしい。その一方で最近の学問分野は複雑化しており、変化が激しい。高校の教員にとってはなじみのない分野もある。生徒への説明のため大学教員を積極的に活用するのが良い。 ・失敗した経験はアピールになる。チャレンジしてほしい。	(1)学校が目標としているもの、育てたい生徒像を明確にして全職員で共有し、授業や進路指導を行っていく必要がある。個ではなく組織的に進路指導を行う体制を作っていきたい。 (2)ここ数年の実力テストの結果から、生徒を伸ばし切れていない現状が見とれる。その結果を踏まえて、伸び続ける生徒を育成する手立てを考えていく。一般入試の指導はもちろんのこと、総合型選抜の指導も行う。	(1)学校が目標としているもの、育てたい生徒像を年度当初に明確にして共有することで、同じ目標の達成に向けて全職員が進路指導を行う。 (2)主体的に学び続ける生徒を育成するための手立てとして、生徒に高い目標に挑戦する意識を持たせるとともに、進学講座の設置や、一台端末を利用した実力テストに向けての学習、総合型選抜対策等、進学を支援する学習環境の整備を行う。
4	地域等との協働	地域に開かれた学校としての取組みをさらに進め、保護者や地域、大学等外部機関、行政機関等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。	(1)地域と連携・協働する機会を多く持ち、地域に学校の情報を発信し、生徒の主体性を向上させる。 (2)他校や大学等との連携を促進し、協働と信頼に根ざした学校づくりを推進する。 (3)ICTを利用し次世代を担う人づくりを実践する。	(1)生徒の活動を通して、地域や外部機関との交流を図る。 (2)部活動や委員会を中心に他校、外部関係者との外部連携を推進する。 (3)本校のクラウドシステムを用い、諸連絡やアンケートなど様々な場面で保護者にも同システムを利活用してもらおう。	(1)各活動に部活動や委員会の生徒に参加してもらえたか。 (2)外部と協力し、生徒の活動を充実させられたか。 (3)三者面談を通し、全保護者の登録状況・利用状況の確認をすることができたか。	(1)各説明会において、生徒会、ボランティア委員、放送部、放送委員の参加の機会を設けられた。 (2)AOBAキャラバン実施による各部活動の外部への情報発信、アントレ企画によるCM放映やフジテレビ企画等が実施できた。 (3)利用状況の確認は行えた。	(1)生徒参加に偏りがあったため、より多くの生徒の参加を促す機会を提供していく。 (2)HP等を通し、外部連携の機会を多く設けていく。 (3)保護者の利活用の機会が少ないため、情報発信の手立てを学年を中心に作っていく。	・部活動やサークル活動等、地域の専門家に指導してもらおうような機会が増えるとうい。 ・地域貢献活動は一斉でなくてはいけないのか。分割して活動するなど良いのではないかと。若者がいるだけで、地域貢献である。何かをすることだけが貢献ではない。 ・自治会は人員不足でボランティアで補っている。マンパワーとして高校生を考える。イベントだけでなく、地域との継続的な交流が大事だ。	(1)学校説明会において生徒の参加による効果は大きく継続してその機会を継続するとともに、より多くの生徒たちの目を地域に向けられるか、次年度の課題としたい。 (2)AOBAキャラバンはまだ教員主導であるが、次年度はなるべく生徒主体な取り組みになるよう工夫したい。 (3)ICT利活用、特に1人1台端末の有効利用は急務を要する。	(1)文化部や日頃あまり目立たない委員会等に積極的に働きかけ、活動を盛んにすることで有用感を育成し、更に地域に目を向けることで、学校や事故の存在感を育成したい。 (2)発表の場が少ない文化部の生徒にその機会を提供し、活動は学校だけに留まらず、地域へと活動の場を広げたい (3)年度当初に研修会を設け、適切で効果的な利用ができるよう研鑽を重ねたい。
5	学校管理 学校運営	保護者や周辺地域による、本校の教育活動に対する理解を深化させるとともに、安全・安心・快適な学習環境を整備し、保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。	(1)教育環境の整備(安心、安全、快適な学習環境の整備) (2)生徒、職員の学校防災活動の日常からの意識付けを図る (3)防災備蓄品の整備と拡充 (4)40周年式典の準備、運営 (5)ICT利活用のインフラの整備を推進する (6)関係部署で生徒のアカウントの整理、管理を行う。	(1)SDGsを視野に入れた教育環境を整備する。 (2)(3)災害等緊急事態に素早く対応し、早期に学習環境の通常復帰ができるよう、様々な場面を想定して、対応策を検討する。 (4)PTA、同窓会、校内各グループと綿密に連携し、運営を進める。 (5)全HR教室でのデバイス活用が快適に行えるよう整備する。 (6)生徒のアカウントの適切な管理を行う。	(1)重点項目にしっかりと手厚い配備・整備ができたか。 (2)(3)実践的かつ実用的な防災意識を、日常的に各教科などの学習活動にも広げて意識付けを図れたか。 (4)滞りなく実施できたか。 (5)教員・生徒双方のICT利活用がスムーズに行える教室の環境整備ができたか。 (6)生徒のアカウント管理について周知徹底できたか。	(1)文化祭でゴミの削減・減量を実施。ゴミ箱の設置を生徒会役員と検討し、校内美化について考えた。 (2)シェイクアウトを含めた防災避難訓練を行えた。 (3)防災倉庫を追加購入、備蓄品の整備を行い、備蓄食料の喫食訓練を希望生徒で実施。 (4)記念式典を同窓会、PTAと連携し実施できた。 (5)PCとモニター間の無線化を行う。PCを持ちながらの机間指導が可能になった。 (6)アカウント管理の連携が校内で上手く取れていなかった。	(1)扇風機・加湿器・カーテンなど見直すべく環境設備が多くあり順次改善していく。 (2)研修会で学んだことを踏まえて次年度の防災訓練を検討していく。 (3)防災備蓄食料を少しずつ増やしながら改善する。 (4)創立50周年に向けて、運営のノウハウや資料の保存を行う。 (5)全職員がスムーズに実施できるよう研修会を行う。 (6)次年度は、Googleアカウントを用いて学校に関わる全てのシステムにログイン可能にする。	・ICTの活用をはじめとして、教員の業務負担を軽減できるとよい。教員が教育に専念できる環境づくりが必要だと思う。 ・防災を考えると高校生の存在は重要になる。いざという時のためにも、イベントだけでなく、継続的な交流が大切だ。災害はいつ発生するかわからない、全方位的に対策を講じる必要がある。発生直後、その後、対策等学校差が大きい。元石川高校はどうするのか。ルールができているなら問題はないと思う。 ・防災、防犯を考えるなら自治会にはいろいろなテーマがある。一緒に楽しむ視点を持つようにしたい。	(1)事務室と連携をとりながら、県費予算を有効活用して、教育環境の整備・改善につとめていく。 (2)生徒の防災という視点だけでなく、生徒が減災に貢献できるような知識や行動力を育む。また、いざという時のために防災用品の起動確認、AED・救急手当方法なども含めた実施訓練も行っていく。 (5)PCとモニター間の無線化により机間指導が容易になった。他にも職員の要望する有用で効果的効率的な学習環境整備に努めたい。	(1)単年度だけでなく、継続的な整備、教育環境の充実に努力していく。 (2)地域(自治会・小学校・中学校等)と連絡とりながら、元石川高校が、何を期待され求められているのか。そして地域の一員として何ができるのかを一緒に考えていく。 ・防災対策については、これまでの対策・訓練に固執せず、様々な視点から考え、現実に対応したやり方を検討する。

